

# 日本臨床発達心理士会 中国・四国支部会報

*Japanese Association of Clinical Developmental Psychologists*

第31号(2019年1月21日発行)

発行 日本臨床発達心理士会中国・四国支部  
編集 日本臨床発達心理士会中国・四国支部会報編集委員会  
事務局 〒729-0292 福山市学園町1番地三蔵 福山大学人間文化学部心理学科 日下部研究室  
E-mail: info@jacdpcs.org TEL: 084-936-2112 (代表)

## 目次

- 1 ご挨拶
- 2 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第16回総会のご報告
- 3 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第50回研修会のご案内
- 4 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第47回研修会のご報告
- 5 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第48回研修会のご報告
- 6 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第49回研修会のご報告
- 7 編集後記

## 1 ご挨拶

日本臨床発達心理士会中国・四国支部  
支部長 深田昭三

2018年5月27日に開催した日本臨床発達心理士会中国・四国支部第16回総会において、これまで長く支部長をお務めいただいた猪木省三氏の後任として支部長に選出されました。これまで副支部長を務めさせていただいておりましたが、支部長の任を担うには、知識の面でも経験の面でも未だ十分ではありません。皆様が安心して臨床発達心理士としての力量を発揮していただくお手伝いができるよう、研修などの面で力を尽くしたいと思います。なにとぞよろしくお願いいたします。

さて、平成30年7月豪雨に際して中国・四国支部では、いち早く「会員情報管理システム (SOLTI)」を通じて被害状況の取りまとめを行いました。46名の会員の方からお返事をいただき、全員のご無事を確認しました。ただ、家屋被害や交通面での困難を経験された会員の方もおられました。被害に合われた会員の方には、誠に遅ればせながらお見舞い申し上げます。また各所において被害者支援に当たられた会員の方も大勢おられるかと思えます。ご尽力は心から敬意を表します。

今年度の研修会も、残すところ2月3日(日)に高知市で主催される第50回研修会のみとなりました。研修会の開催にご尽力いただきました関係の先生方にお礼申し上げますとともに、多くの会員の方のご参加をお待ちしております。

## 2 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第16回総会のご報告

2018年度中国・四国支部総会を以下の通り行いましたので、ご報告いたします。

1. 日時 2018年5月27日(日) 13:00~14:00

2. 場所 福山市ものづくり交流館

3. 議事

(1) 2017年度活動報告

1. 第15回総会の開催

2017年5月14日(日) 愛媛大学

2. 研修会等の開催

① 支部第43回研修会 2017年5月14日(日) 愛媛大学教育学部において、大谷多加志先生(京都国際社会福祉センター発達研究所研究員)により、「新版K式発達検査を活用したアセスメントと解釈の仕方」の講演

② 支部第44回研修会 2017年7月9日(日) 鳥取大学地域学部において、井上菜穂先生(鳥取大学准教授)により、「発達障害児・者への総合的な支援の実際ー「困った行動」の意味を考えるワークを通してー」の講演

③ 支部第45回研修会 2017年11月5日(日) 香川県県民ホールにおいて、藤野博先生(東京学芸大学教授)により、「『心の理論』から考えるコミュニケーションの発達と障害」の講演

④ 支部第46回研修会 2018年2月10日(土) 山口県立大学において、諏訪利明先生(川崎医療福祉大学医療福祉学部准教授)により、「発達障害のアセスメント~正しい理解をもとにはじまる支援~」の講演

3. 会報の発行・ホームページによる情報の発信

会報を2回発行(4月, 10月)

ホームページを随時更新(<http://jacdpcs.org/>)

4. 事例報告会の開催

① 2017年4月24日(月) 岡山市立中山小学校にて「発達関連事例検討会」実施 日本臨床発達心理士会中国・四国支部会員による主催

5. 役員会の開催

2017年5月14日(日) 愛媛大学

(2) 2017年度決算について

資料に基づき決算報告がなされ、異議なく承認されました。

(3) 2018年度活動計画案

1. 総会の開催

2018年5月27日(日) 福山市ものづくり交流館

2. 研修会等の開催

① 2018年5月27日(日) 広島県(第47回研修会)

② 7月 岡山県(第48回研修会)

③ 10月 徳島県(第49回研修会)

④ 冬 高知県(第50回研修会)

3. 会報の発行・ホームページによる情報の発信

会報を2回発行(4月, 10月)

ホームページを随時更新(<http://jacdpcs.org/>)

4. 事例報告会等の開催  
各地域での開催の活性化
  5. 役員会の開催
  6. その他必要な活動
- (4) 2018年度予算案  
資料に基づき予算案が提案され、異議なく承認されました。

- (5) 支部役員の変更  
下記の通り支部役員の変更が行われました。

役員（任期：2018年度～2020年度）

支部長	深田昭三（愛媛）
副支部長	藤田久美（山口），山本真由美（徳島）
事務局長	日下部典子（広島）
会計	日下部典子（広島）
県役員	寺川志奈子（鳥取），西村健一（島根），西山 修（岡山），倉盛美穂子（広島），藤田久美（山口），山本真由美（徳島），江上園子（愛媛），越智早智（香川），大田由美（高知）
研修担当	湯澤美紀（岡山），川本 孝（愛媛）
会報担当	片山美香（岡山），江上園子（愛媛）
ホームページ担当	猪木省三（広島）
幹事	西村健一（島根）

- (6) その他

1. 会員数が報告されました。  
260名（2018年5月現在）  
鳥取県 20名，島根県 9名，岡山県 48名，広島県 42名，山口県 25名  
徳島県 13名，香川県 10名，愛媛県 69名，高知県 22名，神奈川県 1名
2. 公認心理師について説明されました。

### 3 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第50回研修会のご案内

2月3日（日）に高知県で今年度最後となる支部研修会（第50回研修会）が下記の内容で開催されます。すでにHPでご案内させていただいておりますように、事前のお申込は不要です。たくさんの方々のご参加をお待ちしております。研修会の参加者ポイントは（1）区分の1ポイント（3時間）です。詳しくは、<http://jacdpcs.org/kenshu.htm>をご覧ください。

【問合せ先】大田由美（高知県役員） E-mail: [yumi-829@hotmail.co.jp](mailto:yumi-829@hotmail.co.jp)

1. 日 時 2019年2月3日（日）13:00～16:00（受付12:40～）
2. 会 場 高知市勤労者交流館第2研修室  
〒780-0802 高知県高知市丸池町1番1-14  
<http://kumpel-kochi.com/information.html>

3. 講師 高橋依子先生（大阪樟蔭女子大学学芸学部心理学科 教授 臨床心理士）

4. テーマ 「描画テストを活用したアセスメントとその解釈～HTPPを中心に～」

#### 概要

投影法の一つである描画テストは、クライアントの人格や心理状態を把握するために行われるテストです。描かれた絵や絵を描いているときの様子を通して、クライアントの内面にふれながら、言葉ではうまく表現できない心の動きや人格構造、発達状況、家族関係等を推測することができます。また、言語能力に依存しないため、言葉が未発達な子どもや言語によるコミュニケーションが難しいクライアントにも実施できるという特徴があります。

そこで本研修会では、描画テストの一つであるHTPPテストを取り上げ、この研究の第一人者である大阪樟蔭女子大学教授の高橋依子先生を講師にお招きし、HTPP（「家→樹木→人物→その人物の対の性別の人物」を順番に描く）テストのアセスメントと解釈の仕方について、会員の皆様と一緒に学びを深めていきます。

さらに、臨床現場や保育・教育現場等で目にする絵の見方や捉え方等についても学んでいく予定です。

5. 参加費 500 円（参加費は、当日会場にてお支払いください。）

#### 6. ご注意とお知らせ

2017年4月以降、支部研修会等での資格更新ポイントの管理は「会員情報管理システム（SOLTI）」で行われます。IDカードに貼付または印字されているバーコードを読み取り、参加受付をいたします。

支部研修会の参加にあたっては、以下の点をご確認ください。

- (1) 開始後10分以上の遅刻をした場合及び終了10分以上前に退出をした場合は、資格更新ポイントの発行はできません。
- (2) 参加の際には、IDカードをご持参ください。お忘れの場合は資格更新ポイントの発行はできません。なお、参加記録ノートは不要です。
- (3) IDカードにバーコードが貼付または印字されていることを事前にご確認ください。
- (4) 開催年度までの会費を納付済であることを日本臨床発達心理士会の会員情報管理システムで事前にご確認ください。未納付の場合は資格更新ポイントの発行はできません。

## 4 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第47回研修会のご報告

2018年5月27日（日）、福山ものづくり交流館7FセミナーAにて、伊澤幸洋先生（福山市立大学）を講師としてお招きし、「WISC-IVと日本語版 KABC-IIを用いたクロスバッテリーアプローチの実際」と題して、中国・四国支部第47回研修会が開催されました。本研修においては、講師の言語聴覚士としての豊富な臨床経験にもとづいて、WISC-IVと日本語版 K-ABC IIを用いたアセスメントの実際と、両者のアセスメントの結果に基づいた解釈が紹介されました。



まず、WISC-IVと日本語版 K-ABC IIは、それぞれが何を目的にしたアセスメントであるかといった概略と理論的背景が説明されました。また、両アセスメントの相違点について言及されました。前者は

能力測定の手段であり、「早くできること」を知能の1つとして評価する一方、後者は学習能力の測定手段として用いられるが、「早くできること」は評価に含まれないこと等が紹介されました。

後半は、3つの事例をもとに、子どもの臨床像を共有しながら、アセスメントの解釈が行われ、特に子どもの支援につなげていくために見落としはけない視点も紹介されました。説明の要所において、「アセスメントの結果から、子どものいい面を見つけないと子どもの実態を見落としてしまうこと」「アセスメントが子どもの具体的な支援に繋がっていかなければ、その価値がないこと」「両アセスメントの下位項目を補いながら見るのが大切であること」等のメッセージが伝えられました。

講師の豊かな臨床経験に裏打ちされた内容で、参加者は子どもの実際の姿を思い浮かべながら話を聞くことができました。参加者は55名でした。

当日の参加者数は、55名(臨床発達心理士のみ、その他には非公開)で、士会各支部主催の研修としての資格更新ポイントは1ポイント(3時間)でした。

## 5 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第48回研修会のご報告

2018年8月10日(金)、岡山県立図書館 多目的ホールにて、中国・四国支部第48回研修会が開催されました。山下桂世子先生(ジョリー・ラーニング社国際トレーナー)、湯澤美紀先生(ノートルダム清心女子大学)を講師として、「ワーキングメモリと英語入門ー子どもたちの多様な学び方を踏まえたシンセティックフォニックスの提案ー」というテーマでご講演いただきました。



本研修では、英語入門期の学習のあり方として、多感覚を用いたシンセティックフォニックスが有効である点について理論・実践両面から提案されました。

前半部分では、イギリスの小学校の通常クラス・特別支援教育にて、学習支援を行っている山下桂世子先生(ジョリー・ラーニング社国際トレーナー)が、多感覚を用いたシンセティックフォニックスの基本的な考え方と導入の実際を紹介されました。また、参加者には、英語の音をつなぎ合わせて単語を作り出すブレンディングといった体験をしてもらうことによって、参加者自らも楽しみながら、改めて英語学習の基礎に触れることができました。

後半部分では、湯澤美紀先生(ノートルダム清心女子大学)が、日本の子どもたちの英語の音声の聞き取りにくさについて研究成果を報告するとともに、多感覚を用いたシンセティックフォニックスの有効性について、ワーキング理論の観点から説明されました。

加えて、学習上、様々なニーズを抱える子どもたちに対する具体的な支援事例も紹介され、参加者は、英語教育・特別支援教育について新たな視点を得ることができました。

当日の参加者数は、65名(臨床発達心理士参加者27名、その他38名)で、士会各支部主催の研修としての資格更新ポイントは1ポイント(3時間)でした。

## 6 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第49回研修会のご報告

2018年10月28日(日)、徳島大学総合科学部1号館301教室にて、中国・四国支部第49回研修会が開催されました。「特別支援教育(小学校)の実践 ～授業者と巡回相談員の立場から～」

というテーマで、早川貴久子先生（臨床発達心理士）によるご講演を賜りました。

講演の前半では、徳島県内の特別支援学校、特別支援学級、通級による指導等におけるこれまでの歴史や近年の動向について、行政の立場で関わってきたことを踏まえた説明や、小学校の指導教諭として現場に戻られた時の、通常の学級に在籍している発達障害児の個別支援等について、具体的な実践例を示しながらお話されました。



後半では、特別支援教育巡回相談員として取り組まれた事例を中心にお話をされました。特に、以下の2つの事例はとても印象的でした。1つ目は、特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習において、U-Qアンケートを取り入れた子どもたちの意識の変容を分析することで、障害のある子どもに対する理解・啓発を推進した事例、2つ目は、体育科の短なわ跳びの授業にセンシング測定を取り入れて運動データを数値化・グラフ化したことで、特別な教育的ニーズのある子どもも含めて学級全体の変容が明らかになり、発達段階に応じた効果的な指導に結び付いた事例です。2つとも、仮説－実践－結果－分析－考察という流れが明確で内容も分かりやすく、我々臨床発達心理士が日々取り組むべき実践研究において、大変参考になりました。

最後に早川先生が言われた「特別支援教育は、一人一人を大切にするという意味では特別ではない。しかし、その意味を深く知るためには専門的な知識が欠かせない。」「教育の専門家とは違う発達心理の専門家として、学校を納得させる説明ができるかどうか。そのためにも学びの継続が必要である。」という言葉に、多くの参加者が感銘を受けていました。

参加者数は30名（中国・四国支部28名、他支部2名）、士会各支部主催の研修としての資格更新ポイントは1ポイント（3時間）でした。

## 7 編集後記

会員の皆様には、年度末の多忙な毎日をお過ごしのことと存じます。

昨年末には、第1回の公認心理師の合格者も発表され、今後、本学会におきましても、公認心理師や、その他の資格との関係の持ち方が課題となり、様々な論議が展開される新しい年になるのではないかと思います。ぜひ、会員のみなさまで活発な協議を重ねながら、臨床発達心理士としての専門性を深化させていきたいと願う次第です。引き続き、何卒よろしくお願い申し上げます。

支部からのお知らせは、日本臨床発達心理士会の会員情報管理システム（SOLTI）

（<https://service.gakkai.ne.jp/solti-asp-member/auth/JOCDP>）を使って、メールでお送りしております。まだメールアドレスを登録されていない方は、登録をお願いいたします。メールアドレスを変更された場合は、登録変更のお手続きをお願い致します。会員情報の登録及び変更は、日本臨床発達心理士会の会員情報管理システムにて行ってください。

会員に関連のあるトピックスや最新の情報、研修会などのご案内、支部会報のバックナンバーなどは中国・四国支部ホームページ（<http://jacdpcs.org/>）に掲載しております。

中国・四国支部の各地区で研修会・事例検討会等を開催される場合、中国・四国支部から補助金を支出いたします。詳しくは「支部からのお知らせ」のページ（<http://jacdpcs.org/osirase.htm>）を

ご覧ください。また、支部研修会で取り上げる内容や実施の方法等についてご提案がありましたら、  
どんどんお寄せいただければ幸いです。担当役員が検討させていただきます。その他、支部へのお問  
い合わせ、情報提供等も、以下の中国・四国支部連絡先までお送りくださいませ。

中国・四国支部連絡先：[info@jacdpcs.org](mailto:info@jacdpcs.org)

(編集委員会)